学校だより
学校教育目標
「豊かな心をもち，相手を思いやり，ともに「生きる力」を身に付ける児童の育成」
2019（令和元）年度学力特集号
2019（令和元）年１１月８日
北九州市立広徳小学校
校 長　花田 博之

こうとく

平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

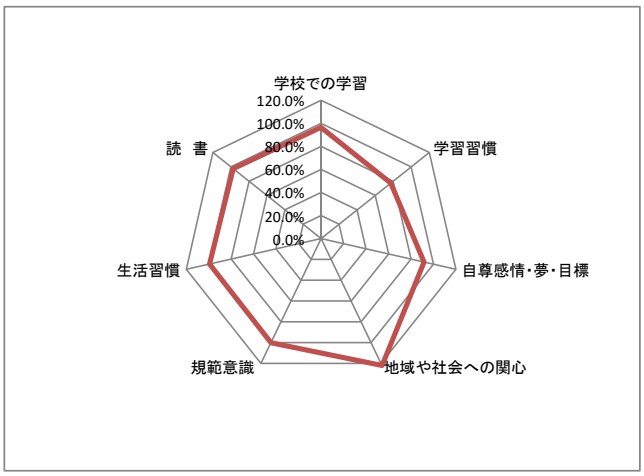
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能については、いずれも全国平均を下回っているが、これまでよりも上昇傾向にある。図表やグラフなどを文中に用いた目的を捉えることができた。漢字を正しく書く問題の正答率が全国平均を大きく上回った。情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることや目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。	下回っている
算数	各領域全国平均を下回っているが、「数と計算」領域については、これまでよりも上昇傾向にある。棒グラフの問題から、資料の特徴や傾向を読み取ることがよくできていた。また、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることがよくできていた。図形についての観察や構成などの活動を行い、構成要素や平面図形について理解を深めることが課題である。	下回っている

2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
地域の行事に参加している児童が多い。市民センターや児童館など様々なところで祭りやイベントを開催していることで、児童が地域の方々と触れ合う機会に恵まれている。また、地域が一体となり子どもたちを育てる意識が高いことが分かる。 学習習慣については、家庭での学習時間が短い。自分で計画を立てて勉強をする力が必要である。学校で「広徳漢字検定」という取組を行っているので、自主学習と合わせて家庭学習でも取り組めるようにする。読書に関しては好きな児童が多い。本を読む習慣を身に付け、さらに読書好きな児童を育てたい。

3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

「広徳漢字検定」実施や朝自習「学年で漢字」の時間を中心に、当該学年や上の学年の漢字の定着を目指して全校で取り組む。授業の中で話合い活動を取り入れ、友達の考えを聞き思考の広がりや深まりを味わわせたり、課題意識を生み、興味・関心をもったりすることができるような学習指導の工夫を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

地域とともに児童を見守りながら育てていく。そのために開かれた学校づくりを進め、連携を深める。また、各学年において生活科や総合的な学習の時間で地域の方や近隣の学校との積極的な交流を行い、地域に愛着をもち、自分自身が関わって地域をよくして行こうとする「シビックプライド」の心情を育て、自分自身や地域を大切にできる児童を育てていく。